



令和7(2025)年7月16日

## 校長だより Vol.5



『同じ星を見て歩いていきましょう!』③

～三つの「わ」を大切に!～

Eジャーナルしずおか

平成25年(2013年)8月20日(火曜日)

第118号

(4)

みずうみ Angle

### 三つの「わ」を大切に!

～組織的な生徒指導は  
教職員の人間関係づくりから～

や、雑談が必要ではないでしょうか。趣味の話、本の話、健康の話……。どんな内容でも話をするこゝと、聞いてもらうことで心がリフレッシュします。

#### 三つ目は「和」

児童・生徒への関わりには、私たち教職員同士の関係が映し出されます。そのための「輪」「話」「和」、三つの「わ」を実践してみませんか?

#### 二つ目は「輪」

問題行動等に遭遇したとき、児童生徒が発信する様々なサインに気付いたとき、つい一人で抱え込んでしまつてはいませんか。このようなとき、相談できる同僚がいることは大変心強いことです。2人、3人……と、小さな「輪」が生まれ、困ったとき、悩んだときに援助を求められる関係こそが、組織が機能する原動力になります。

#### 一つ目は「話」

「忙しい」「余裕が無い」とは、学校現場でよく聞く声です。しかし、そんなときだからこそ、仕事とは少し離れた内容の話

私たち教職員は、皆同じタイプの人間ではありません。違つて当然です。違つているからよいのです。児童・生徒は、様々な価値観を持つ教職員に、数多く接していくからこそ成長していきます。

しかし、教職員各々がばらばらな方向を向いていたのでは、児童生徒をよりよく育みたいという共通の願いを果たすことは出来ません。それぞれが違いを理解し、相互に補充しようと働き掛けることが必要ではないでしょうか。児童生徒は、そんな私たちの「和」の姿を感じとっているはずですから。

これら三つの「わ」を大切にしたら教職員間の良質な人間関係づくりが、組織的な生徒指導の実現につながります。

【人づくり支援課  
生徒指導支援班】

上の文章は、今からちょうど12年前に書いてみたものです。

学校の雰囲気は、生徒の表情そのものです。そして、それはまさに先生方の表情でもあります。

まずは、**三つの「わ」を大切に!**して、シンプルに**「同じ星」を見て歩いていきましょう!**

### 「授業づくり」における 危機管理

釈迦に説法のように恐縮ですが、「**授業づくり**」は、単なる知識伝達ではなく、生徒一人ひとりの資質・能力を育むための重要な教育活動です。

効果的な「**授業づくり**」は、「**人づくり**」の根幹でもあり、未来を担う生徒たちが自ら考え、行動できる力を養うために不可欠なものです。

良い「**授業づくり**」には教員の絶え間ない努力と自己研鑽が求められます。

経験年数の長短に関わらず、先生方には御自身の専門知識や指導技術を磨きつつ、多様な学習スタイルや生徒の興味関心に応じた工夫を凝らし続けていただきたいと考えます。

教材や指導方法の工夫だけでなく、生徒同士の対話や協働学習を促進する仕掛けと、授業計画段階では、生徒が主体的に学びに取り組めるような問いかけや課題設定を行い、「深い学び」を実現することです。

自戒を込めて申し上げれば、「良い授業を用意した!」と自分では思っている、検証せずにそのまま実施してしまうと、「活動あって学びなし」のような、落とし穴に陥ることがあるものです。

一つは、一方通行の講義形式になりがちな点です。残念ですがこれでは生徒の主体性や思考力は十分に育ちません。もう一つは、評価やフィードバックが形式的になっていることに気づかず、生徒自身が自分の成長を実感できない状態を生んでいるにも関わらず、同じこと(授業スタイル)を繰り返し行うことです。このような状況を避けるためにも、授業中に内実が伴う生徒との積極的な対話や、本時(または単元)がどのようなねらいで行われていたのかを確認するために、5分で良いので振り返りの時間をキチンと設けることが必要です。

生徒の主体性を育成するためには、「問いかけ型」の授業設計が効果的です。

例えば、「このテーマについて、あなただったらどう考えるか？」という質問から始めて、自分自身の意見や疑問点を書き出させたり、小グループで討議させたりします。その上で、多様な意見交換や共同作業を通じて、自分と他者の視点（観点）は必ずしも一致しないことや、新たな気付きを得ることが出来ます。また、教師はあくまでファシリテーターとして、生徒一人ひとりの発言や考えを尊重しながら、多角的な視点へと導いていく役割も果たすことができます。

良い授業づくりは「継続的改善」が不可欠です。教員自身が振り返りと反省を繰り返し、新しいアイデアや工夫を取り入れる姿勢こそ、生徒たちへのより良い学びの提供につながるはずで

そして何よりも大切なのは、生徒一人ひとりが自分自身で学ぶ喜びや達成感を感じられる環境づくりです。自己肯定感が高まるでしょうし、“授業づくり”は、“人づくり”の土台となるはずで

『応援有志のみなさん、ありがとう！！』

今後に期待！ ガンバレ西高野球部

もし、あなたが負ける と考えるなら、 あなたは負ける。  
もし、あなたがもうダメだ と考えるなら、 あなたはダメになる。  
もし、あなたが勝ちたいと思う心の片隅で ムリだ と考えるなら、  
あなたは 絶対に勝てない。  
もし、あなたが失敗する と考えるなら、 あなたは失敗する。  
世の中を見てみろ。  
最後まで 成功を願い続けた人だけが、 成功しているではないか。  
すべては 「人の心」が決めるのだ。  
もし、あなたが勝てる と考えるなら、 あなたは勝つ。  
「向上したい」「自信を持ちたい」と、あなたが願うのなら、  
あなたは その通りの人になる。  
強い人が勝つとは限らない。素晴らしい人が 勝つとも限らない。  
「私はできる」そう考えている人が 結局最後は勝つのだ。  
(成功哲学者：オリバー・ナポレオン・ヒル)



6月29日(日)から第107回全国高等学校野球選手権静岡大会が始まりました。

この文章は、7月4日(金)の夕方に行われた野球部保護者主催の壮行会の際にお話した一節です。

(出張と重なってしまい、昼間の生徒会主催の壮行会に出席できず大変申し訳ありませんでした。)

本校の一回戦は7月5日(土)に掛川球場第一試合。相手は昨秋・今春と県大会に出場している西部地区の実力校の袋井高校でした。結果は、5-21(5回コールドゲーム)で敗戦しました。

昨年度は川根高校との合同チームとしての大会出場でした。新入生が最低3人入部してくれば、夏の選手権大会に単独チームとして出場できる。そう信じて活動を続けてきました。結果的には、1年生3名が入部し、兼部での助っ人部員も参加してくれ、清水西高校として単独で戦うことができました。

野村保監督は、「粘り強く、決してあきらめない野球」で、基礎基本を大切に、一人一人の選手の技量を高めながら、チーム力を磨いてきました。ひと月ほど前に、偶然廊下で出会ったキャプテンの山本颯也さんに大会への意気込みを聞くと、「自分たちの野球をやります。」と、力強く語りました。純粹で外連味のないその言葉から、自分たちの野球に誇りを持っていることが伝わってきました。5-21の敗戦は、みなさんの目にどのように見えて、どのよう伝わったでしょうか。3年生野球部員の姿勢は、引退後もあの時のキャプテン山本君の言葉どおり凛々しいままです。応援委員会をはじめ、ダンス部や吹奏楽経験者による有志のみなさん、本当にありがとう。形式的などではなく、「野球部を応援するぞ！！」という気持ちを出してくれた応援がどれだけ選手の背中を支えたことか。敗戦の悔しさよりも、誇らしい気持ちの方が強い気がします。暑さに負けない“熱さ”を感じさせてもらいました。本当にありがとう。